

台中日本人学校について (台中市日僑學校)

派遣期間 平成22年4月～平成25年3月
美瑛町立美瑛東小学校 教諭 山口 貴大

1 台湾（中華民国）について ※正式には「中華民国」

(1) 地理

台湾は、台湾本土とその周辺諸島から構成されており、面積は3万5980kmと九州程度の大きさである。

台湾北東部は日本の琉球諸島の西方海上に位置しており、最も近い与那国島との距離は110km以下である。また、台湾地域西端の金馬地区は台湾海峡を隔てて中国と接しており、最南端の岬である鵝鑾鼻（がらんび）は、巴士海峡を隔ててフィリピンと接している。

台湾最大の島である台湾島は、南北の最長距離が約394km、東西の最長距離が約144kmでサツマイモのような形をしている。島の西部は平野、中央と東部は山地に大別されるが、島をほぼ南北に縦走する5つの山脈が島の総面積の半分近くを占めており、耕作可能地は島の約30%にすぎない。台湾最高峰の山は玉山山脈の玉山（旧日本名：新高山、海拔3,952m）で富士山よりも高く、同様に標高3,000mを超える高山が多数連なっている。

なお、台湾はフィリピン海プレートとユーラシアプレートの交差部に位置するため、日本と同様に地震活動が活発な地域であり、過去に大きな災害も起こっている。また日本と同じ火山帯に属し、温泉もたくさんある。



(2) 気候

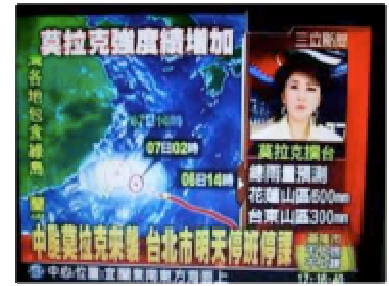
台湾はほぼ中央部を北回帰線が通っており、北部が亜熱帯、南部が熱帯に属している。そのため、北部は夏季を除けば比較的気温が低いのに対し、南部は冬季を除けば気温が30度（摂氏）を超えることが多い。台湾の夏はおおよそ5月から9月までで、通常は蒸し暑く、日中の気温は27度から35度程度まで上り、7月の平均気温は28度である。冬は12月から2月までと期間が短く、1月の平均気温は14度である。気温だけで言うと温暖であるが、現地で生活していると、夏の気温に体が適応してしまうため、とても寒く感じる。私自身も北海道の真冬と同じ服装で過ごすことが多かった。

平均降雨量は年間およそ2515mmであるが、降雨量は季節、位置、標高によって大きく異なっている。台湾は台風の襲来が多く、毎年平均3～4個の台風に襲われており、災害も発生している。暴風雨が激し



い時は、各自治体の判断により仕事や学校が休業になる。

	平均気温 (°C)	降雨日数	年間雨量 (mm)
台北	22.6	170	2325
台中	23.0	117	1542
高雄	24.7	92	1785
東京	15.9	189	1466
札幌	8.5	265	1127



テレビによる休業のお知らせ

(3) 歴史

①19世紀まで

18世紀頃までの台湾は、中国本土の支配を受けた他、オランダやスペインの植民地であったときもある。以前より、中国大陆から漢人が入植していたが、清の時代になると、政府の政策もあり中国本土からの移住が一段と進んだ。もともと台湾に居住していた先住民民族（台湾では原住民と呼ぶ）は14民族であるが、いずれも少数民族であるため、人口の大半は漢人が占めるようになった。



〈オランダ統治時代の古城〉

台湾に渡った漢人の出身地は福建省が多く、福建地方の言葉が、現在は台湾語と呼ばれ、広く使われている。また、北方からの漂流民である客家人も台湾に移住してきた。

清の時代には、台湾にもその支配が及んだが、大陸政権は中華思想の政権であり、中央との距離は遠いほど文明度が低くなるという思想により、台湾は小さな僻地の島に過ぎず、十分な統治を行わなかった。そのため、近世以前の台湾は、混沌とした状態が長く続いた。

②日本統治時代

19世紀末、日本は日清戦争に勝利し、台湾の統治権を得た。これ以後約50年間、台湾は日本の植民地となった。日本の統治に対して、当初は台湾住民の抵抗が強く、紛争もあった。

台湾に対する日本の植民地政策は、植民地経営での欧米との対抗意識や、南進政策もあり、道路、鉄道、港湾、上下水道、電気、通信などのインフラの整備や、教育の普及、治安の維持に注力するもので、そのレベルは当時の日本本土を上回るものであった。



〈日本統治時代の政治の中枢・総統府〉

台湾人は二等国民とされ、日本人や朝鮮人らと差別されたが、こうした植民地政策により、台湾の公共インフラや教育水準はこの時期に飛躍的に向上し、経済的にも発展した。

日本統治時代は、台湾人の日本同化政策により、台湾での学校教育は日本語で行われたため、この時代に学校教育を受けた世代は、日本語を話すことができる。

③太平洋戦争の頃

中国大陆では1911年に、現在の台湾のルーツとなる中華民国が成立した。現在の台湾でも、この1911年を元年とする中華民国暦が用いられている。

太平洋戦争で敗戦した日本は、台湾の領有権を放棄し、戦勝国である中国（中華民国）がその領有権を得て、中華民国の台湾統治が始まった。当時の中華民国は蒋介石が率いる国民党が代表政権であったが、毛沢東率いる共産党との内戦に疲弊しており、台湾に進駐してきた国民党軍も統治意識が低く、略奪や粗暴行為が頻発した。

台湾人は、統治が日本から中国に移ったことを最初は喜んだが、進駐してきた国民党軍のこのような振る舞いを嫌悪した。日本の旧植民地でありながら、現在、日本に対する国民感情が比較的良いのは、ここに起因すると言われることもある。

国民党進駐前から台湾にいた漢人を「本省人」といい、これ以後大陸から渡来した漢人を「外省人」といっている。

④ 蒋介石時代と国連脱退

共産党との内戦に敗残した国民党は、蒋介石ら多くの政治家、官僚、軍隊が台湾に逃れ、台北を臨時首都とし、中華民国の政権を形成した。総統である蒋介石は、台湾の日本色を排除する政策をとった。

学校では大陸の言葉である北京語による教育になり、日本語は禁止された。また政治的には、徐々に独裁色が強まり、強圧的な政権へとなっていった。

こうした政策への反発を抑えるため、国民党政権は知識層を中心とした弾圧事件を相次いで起こし、次第に恐怖独裁的な政権となっていき、世界でも類を見ない40年以上続くことになる戒厳令が布告されるといった事態になった。

そのような独裁色の濃い政権でしたが、一方で、戦勝国として国連安保理の常任理事国であった中華民国は、工業の発展や国際化により経済が飛躍的に発展し、国民の生活水準は次第に向上した。

1970年代になると、中国大陸では中国共産党の支配による治安維持が進み、国としての体裁が整ってきたこともあり、国連では、中華人民共和国を中国を代表する国家として承認することになった。

このとき、中華人民共和国、中華民国の双方とも、大陸と台湾は一つの中国という国家であると主張したため、中華民国は中国の中の台湾という地域を占拠している集団ということになった。

中華民国は、このとき国連を脱退し、かわって、中華人民共和国がその地位に就いた。それ以来、台湾は、国際的には中国の一地方として位置付けられることになり、台湾問題は中国の内政問題という位置付けになった。日本でも田中首相の時代に、中華人民共和国と国交を樹立し、同時に中華民国と断交した。

中華民国の国連脱退後、多くの国は中華民国と断交したが、政治的、経済的に台湾とのパイプの維持を図った。日台間でも、民間の機関という名目で、大使館の役割を担う組織（日本-財団法人交流協会）が相互に置かれ、経済的、人的な交流が続いている。

⑤ 現代

政権が蒋介石の息子である蒋経国総統の頃になると、情報化社会や国民の所得水準の向上により、政府が国民の批判を押さえつけることは困難になった。そして1987年に戒厳令が解除され、台湾の自由化が始まった。

蔣経国の死後、副総統であった李登輝が総統に就任した。李登輝は本省人であったが、蔣経国の現実路線によって、さまざまな理由から副総統に就任した。李登輝時代に自由化は一段と進み、議会が解散され、中華民国初の普通選挙も行われた。

一方経済的には、一時は外貨準備高が世界一になるなど、潤沢な資金を背景に、ハイテク産業を中心にした莫大な投資を行い、台湾で経済奇跡と呼ばれる経済発展を成し遂げた。

その後、総統直接選挙が行われ、野党民進党の陳水扁が総統となったが、2008年には再び国民党に政権が戻った。現在では世界でも自由な地域の一つとして、事実上の先進国になった。

事実上は独立国家として機能している台湾であるが、国際的には中国の一地域であり、中国との間の軋轢が続いている。現在の政権は、中国との経済関係は発展させるが、政治的には現状維持という現実路線の立場をとっている。台湾国民の中にも、独立派、統一派、現状維持派など様々な考え方があって、この複雑な社会情勢はしばらく続くと思われる。

(4) 言語

台湾の公用語は中国語（北京語）であり、国内では国語と呼ばれている。国語は中華人民共和国の公用語である普通話と基本的に同一言語であるが、現在では語彙などの細かい部分に多少の相違点が生じている。他にも日常生活では台湾語（ホーロー語、河洛話、福佬語）、場所によっては客家語、台湾原住民の諸言語が使用される。台湾語は伝統的区分では福建方言（閩語）の一種である閩南語に含まれるが、平埔族の言語や日本語の影響を受けており、その意味でも閩南語とは分化し台湾語、福佬語などと呼称される。

また、台湾原住民の諸言語はオーストロネシア語族の言語であり、多くは台湾諸語に属する（タオ語のみマレー・ポリネシア語派に属する）。その数は、1622年にオランダ人入植者がやって来た時には少なくとも30はあった。その後、2度中国語の配属下にあったことで、その数は10程度に減ってしまった。また、その話者も2000人以下ということから、土着語は絶滅する危険にさらされている。

国語は普通話と同様に漢字で表記されるが、中華人民共和国で使用されている簡体字ではなく、伝統的な繁体字（正字体）が用いられている。ただし、日常生活ではある程度略字の使用が行われている（「臺灣」を「台灣」と表記）。

高齢者や農村部では台湾語または客家語、日本語のみで北京語が話せない者がいる。民主化以降になって、国語以外の言語、即ち台湾語、客家語、原住民語の教育が義務付けられたが、日本統治時代は日本語で、中国国民党による戒厳令時代は北京語で教育することが定められていた。若い世代では基本的には「国語」と台湾語の両方とも話せるが、在中年世代以下では北京語のみで台湾語を「聞いて理解できるが話せない」という者も少なくない。外省人が人口に占める割合の多い都市部でその傾向は大きい。従って、同じ「台湾人」であるはずなのに世代間でコミュニケーションが成り立たないということも珍しくない。

また英語の教育熱が高く、幼稚園時代から英語のみ使用する施設などに子供を預ける者も多い。アメリカへの修士号への取得、学士号の取得を目標とする留学者も多い。

(5) 宗教

台湾では政教分離を基本とし、また中華民国憲法（第二章第十三条）により宗教信仰の自由が保障

されているため、国内では各種宗教が自由に存在し、布教されている。

台湾における宗教は、道教・キリスト教・仏教が特に盛んであり、人々は今日でも宗教と深く結び付いている。道教は二大系統のうち、正一教（天師道）の系譜に連なる。キリスト教は、プロテスタントが多数派であり、なかでも長老派教会が最も信徒の多い教派である。仏教は、1980年代頃から信徒数が急増し、なかでも仏光山・慈濟・法鼓山・中台禪寺・靈鷲山の台湾仏教五座山の諸派が盛んである。

（6）日本との経済関係

日本から見て、2012年の輸出総額は3兆6731億円、輸入総額は1兆9205億円となっており、輸出は主に電気機器（23.9%）、原料別製品（17.5%）、一般機械（16.1%）、雑製品（7.2%）など、輸入は主に半導体等電子部品（27.5%）、原料別製品（12.8%）、雑製品（11.9%）、化学製品（9.8%）、一般機械（7.4%）などとなっている。輸出については、輸出相手国として第4位である。



〈台北101〉

台湾から見て、輸入は465億ドルで第1位、輸出は175億ドルで第4位であり、親密な貿易相手国となっている。

民間貿易以外に台北国際金融センタービル（臺北101）や台湾高速鉄道（台湾新幹線）の建設など、台湾の主要公共事業も日本企業によるものがあり、台湾経済における日本への依存は大きいものがある。また日本企業による台湾進出以外にも、古くは衣料業関連、現在では電子工業関連を中心に日本進出を果たす台湾企業もある。



〈台湾高鉄〉

また、2012年の人的往来については、日本からの訪台者数は約143.2万人、台湾からの訪日者数約146.7万人である。在留邦人数については、11,661人である。（2013年3月）

（7）代表的な企業

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| ・鴻海精密工業（Foxconn） | 世界最大のEMS（電子機器の付託生産を行う）企業。 |
| ・ASUS（華碩） | パソコン、周辺機器メーカー。 |
| ・Acer（宏碁） | ゲートウェイなどの傘下を持つ、パソコンメーカー。 |
| ・BenQ（明基・ベンキュー） | 2001年、エイサーグループから独立した。 |
| ・AU Optronics（友達・AUO） | 台湾最大の液晶パネルメーカー。 |
| ・Realtek（リアルテック） | コンピューター用半導体メーカー。カニのマークでお馴染み。 |
| ・クアンタ・コンピュータ（広達） | ノートPCの製造台数が世界最多。世界的メーカーの全てが委託。 |
| ・HTC PDA（宏達国際電子） | 世界的なスマートフォン製造メーカー。 |
| ・デルタ電子（台達電子工業） | 世界最大の電源装置メーカー。 |
| ・TSMC（台湾集成回路製造公司） | 世界最大の半導体製造ファウンドリ。 |
| ・D-Link（友訊） | ルーターなどインターネット関連製品における企業。 |
| ・トランセンド（Transcend） | DRAMメモリなど半導体製品の開発、販売。 |
| ・トレンドマイクロ（趨勢科技） | ウイルスバスターなどを開発するパソコンソフトメーカー。 |
| ・GIANT（捷安特・ジャイアント） | 自転車メーカー。 |
| ・キムコ（光陽機車・KYMCO） | スクーターメーカー。 |

- ・三陽工業 (San Yang Industry) SYM ブランドのスクーターメーカー。
- ・裕隆汽車 自動車メーカー。
- ・MAXXIS Tire (正新橡膠) タイヤメーカー
- ・エバー航空 (長栄航空) 航空会社
- ・チャイナエアライン (中華航空) 航空会社



〈GIANT の自転車〉

2 台中日本人学校について

(1) 概要

台中市は台湾のほぼ中央に位置し、台北、高雄に次いで人口100万人を有する台湾第3の都市である。郊外には中部科学工業地帯があり、主にICチップなどの精密機器の製造が行われている。世界で使用されているコンピュータ関連部品がたくさん生産されている。

台中日本人学校は市内から11kmほど離れたこの工業地帯の一角にあるが、学校の周りは畑が広がるのどかな環境である。校地内には、バナナやドラゴンフルーツなどの果樹がたくさんあり、時々お弁当の時間に食べることができる。児童生徒は素直で明るく、小1から中3までが仲の良いアットホームな雰囲気のある学校である。



1999年9月21日に発生した台湾中部大地震では、当時太平市にあった校地に大きな断層が走り、校舎・校庭とも使用不可能となる致命的な打撃を受けた。復興に向けては地震直後から学校運営委員会の尽力や台湾政府(李登輝総統)の配慮もあり、現在の場所に新校舎を建てることができた。

2010年(平成22年)11月には、李登輝元総統を迎え、校舎再建10周年記念式典を盛大に行った。

(2) 沿革

- 1976年4月 台中日本語補習学校として開校する。
- 1977年1月 台北日本人学校台中分校として、日本政府より認可される。
- 1977年4月 台中市日僑学校として認可される。
- 1980年4年 台中日本人学校として独立する。
- 1981年12月 台中縣太平郷に移転し台中縣日僑学校に校名を変更する。
- 1997年4月 20周年式典を行う。
- 1999年9月 台湾大地震により校舎が倒壊する。
- 1999年10月 台中市エンジェル幼稚園を仮校舎として借用、移転する。
- 2000年3月 台中縣大雅郷に仮校舎を建設、移転する。
- 2001年2月 新校舎に移転する。
- 2001年5月 新校舎の再建記念式典を行う。
- 2007年10月 創立30周年式典を行う。
- 2010年11月 校舎再建周年記念式典を行う。



地震により倒壊した校舎

(3) 学校設置・運営

本校は、1977年に台湾日本人会により設立され、委嘱を受けた学校運営委員会が運営に当たっ

ている。運営委員会は、学校予算および決算に関すること、基金や寄付金及び借入金に関すること、校務方針及び報告の承認、現地で採用する教員及び職員の任免、学校運営に関する重要事項などについて協議し決定している。運営委員会は、年 4 回程度開催し、学校運営にかかる費用は日本政府からの補助金、授業料、入学金、海外子女教育振興財団からの援助金などにより賄っている。

運営委員が所属している企業は、キャノン、日産自動車、旭硝子、三菱化学などであり、保護者も技術系の企業に勤めている方が多い。

(4) 児童生徒数 (2013年4月11日現在)

学部	小学部						中学部			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
児童生徒数	14	25	21	19	20	21	19	18	11	168
計	120						48			

※半数近くはは国際結婚家庭(台湾人と日本人のハーフ)である。

(5) 教職員数 (全23名)

【派遣教員】 校長 (1)、教頭 (1)、教諭 (11)

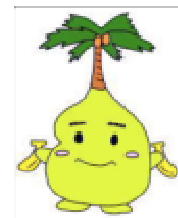
【現地採用】 教員 (4)、養護教員 (1)、事務職員 (2)、用務員 (1)、守衛 (1)

(6) 教育の目的

台中市並びにその周辺に居住している日本国籍を有している子どもに、日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に示されている教育の目的・方針に従い、生きる力を育むとともに、国際性を醸成し、心豊かで心身ともに健全な子どもの育成を図ることを目的とする。

(7) 学校教育目標

生きる力と国際性を身につけた、心身ともに健全な子どもの育成



台中校キャラクター
「やしまる」

(8) 本校教育がめざす具体的な姿

①めざす子どもの姿

- ・自ら進んで学び、考え、判断し、自分の言葉で発信する子ども
- ・挑戦意欲をもって何事にも真剣に取り組み、達成感・成就感を味わう子ども
- ・言葉を大切にし、礼儀正しい子ども
- ・互いの良さや違いを認め合い、仲良く協調できる子ども
- ・自ら進んで運動やスポーツに親しむとともに心身ともにたくましい子ども
- ・台湾並びに外国の生活や文化を学び、異文化を進んで理解し、互いに尊重しあえる子ども
- ・日本のよさや文化を再認識し、自国や自分に誇りと自信をもつ子ども

②めざす学校の姿

- ・児童・生徒にとって学ぶ喜びを感じ、行きたくてたまらない学校
- ・保護者にとって信頼がもて、行かせたい学校
- ・教職員にとってやりがいがあり、協同性のある学校

③めざす教師の姿—溢れる情熱、確かな指導力、総合的な人間力を一

- ・学ぶ意欲と考える喜びを体感させる授業をめざし、互いに磨き合いながら専門的力量を高めている教師
- ・厳しさと優しさをもって子どもを鍛える教師
- ・一人ひとりの子どもの気持ちや願いを共感的に理解し、子どもとともに喜び感動する教師
- ・自分の特技やよさを生かし、組織の一員として協同性をもって学校に貢献できる教師
- ・心身ともに健康で、子ども・保護者・地域・邦人社会から信頼される教師
- ・在外に暮らすよさを体感し、視野を広げ、国際性を高める教師

(9) 主な行事

- 〈4月〉小学部・中学部合同入学式 小1を迎える会、中1を迎える会
小学部こいのぼり集会
- 〈5月〉運動会 小中交流会
- 〈6月〉芸術鑑賞会 中学部修学旅行（隔年） 小学部七夕集会 中学部期末テスト
- 〈7月〉校外学習・宿泊学習
- 〈8月〉計算コンテスト・漢字コンテスト（各学期始めに実施） 中学部実力テスト
- 〈9月〉水泳記録会 921全校朝会 中学部中間テスト
- 〈10月〉生徒会役員選挙 学習発表会
- 〈11月〉小学部修学旅行 マラソン記録会 中学部期末テスト 小学部現地国小との交流
秋祭り（日本人会主催）
- 〈12月〉もちつき大会（PTA協力行事） 小中交流会 中学部現地国中との交流
- 〈1月〉校内書き初め 中1・2実力テスト 中3学年末テスト 小学部節分集会
- 〈2月〉中3を送る会 中1・2実力テスト
- 〈3月〉中3を送る会 小6を送る会 中学部卒業式 小学部卒業式

(10) 教育活動上の特色

①週1時間程度の「中国語」（本校現地採用教員による）の学習をしている。

同時間に国際結婚家庭児童生徒向けに「日本語」の授業を行っている。

中国語は、能力別にクラスを分けて行っている。会話を中心に行っているが、作文指導などもしている。現地校に進学する生徒も少なくないので、重要なものとなっている。

日本語に課題を抱えている児童生徒も少なくないので、日本語の授業も重要なものとなっている。学校生活は全て日本語で行われるため、基本的な能力は早急に育成しなければならない。



②週1時間程度の英会話（外部講師による）の学習をしている。（小5以上）

台湾国内においても、早期の英語教育が重要視され、充実した教育がなされている。本校でも、地元の英会話教室の先生を講師に招き、レベルの高い会話学習をしている。また、校内にて英語検定も実施している。

③社会科見学、生活科校外学習、総合的学習、校外学習、現地校との交流会、修学旅行などを通して現地理解教育を推進したり、国際性を身につけさせたりしている。

〈社会科見学〉ゴミ処理場 市役所 自動車工場 等

〈生活科校外学習〉自然公園にて探検活動・木の実拾い など

〈総合的な学習〉台湾の自然・歴史調べなど

〈校外学習〉牧場見学、陶芸体験活動、博物館・文化施設見学 等

〈修学旅行〉小学部は台湾国内 中学部は日本国内（京都中心）等

積極的に外へ出て学習を進めている。小学部の修学旅行では、原住民居住区の現地校と交流会を行い、日本の文化を伝えたり、原住民の文化を教えてもらったりしている。また、学校から一番近い現地校とも交流を行い、一緒に歌を歌ったり、ゲームをしたり、会話をしたりしている。中には友達になる子もいて、会うのを楽しみにしている。



④中学部では、地元のデパート、幼稚園などにおいて、職場体験学習を進めている。

デパートは、SOGO 百貨店で、接客等の体験をする。接客は中国語で行うので、よい体験となっている。幼稚園はエンゼル幼稚園という日本人向けの幼稚園である。小さな子どもへの教育に難しさと喜びを感じながら、成長する生徒の姿が見られる。



⑤中学部では、現地校に体験入

学をさせている。

新新高級中学という私立校に2週間ほど体験入学をし、共に勉学に励む。授業は全て中国語なので、難しさがあるが、よい体験となっている。友達もたくさんできる。



⑥こいのぼり集会、七夕集会、

書き初め、節分集会、和太鼓演奏等、日本の文化にふれさせる機会をつくっている。

台湾にいるからこそ、日本の文化にふれさせる機会を大切にしている。中には台湾で生まれ育っている子や外国から転校してくる子もいるので重要である。



- ⑦朝学習、漢字コンテスト、計算コンテストの取り組みを通して、基礎学力の向上を図っている。

コンテストは各学期始めに実施している。内容は前学期の学習内容である。時間内にどれだけ点数がとれるかチャレンジするものだが、90点以上とらないと合格とはならず、合格するまで取り組む。基礎学力の向上とともに、学習内容の定着をチェックするよい機会となっている。

- ⑧水泳学習を充実させている。

6月から9月中旬までの間、週3回行っている。最後には、記録会を行っている。指導は外部コーチ（地元スイミングスクール）を活用し、専門的な指導ができるようにしている。質、量とも充実しているため、児童生徒の能力がとても高い。



- ⑨マラソンの取組を1ヶ月間行い、最後には記録会を行っている。

中休みおよび体育の時間に練習時間を設け、1ヶ月間の練習を経て、記録会を行う。時間的・環境的要因から、放課後、屋外で体を動かして遊ぶ機会が少ないので、基礎体力向上の面では重要なものとなっている。



⑩朝読書、読書月間等、読書に親しむ機会を多く作っている。

日本語の言語環境は乏しく、書店で買える本もわずかなので、図書室の役割は大きい。図書の充実を図ると共に、朝読書の時間や読書月間を設け、読書指導を充実させている。

⑪小学生と中学生が交流する機会を作り、豊かな人間性を育んでいる。

小1から中3までの縦割り班があり、屋外清掃活動や交流会（会食、レクリエーション等）をしている。また、各行事においても一緒に行うことが多く、先輩はリーダーシップが身についたり、後輩は協力する力が身についたりしている。皆仲が良く、和気藹々とした学校となっている。



⑫部活動を実施している。

週2回、小5以上で行っている。体力的課題から運動部（野球・サッカー・バスケットボール・卓球・バドミントン）のみ。児童生徒がとても楽しみにしている時間である。実質はクラブ活動に近い。



(11) 運営上の特色

①小学部、中学部がある。

②児童生徒のほとんどはスクールバスにて登下校を行う。

・バス5台 ・朝7：00頃から 帰りは16：55発車（最終）

・派遣職員の出勤は7：00まで。

・乗車指導は学校で行うが、運営はバス委員（保護者より選出）による。

③小5以上は、水曜以外7時間授業。

④小5以上は教科担任制。教員も複数の教科を受け持ったり、小中またいで受け持ったりする。

・教務は小1から中3までの時間割を作成。

- ⑤週3回の学部打ち合わせ、定期の学部会議がある。各学部長が中心となる。
- ⑥週1回、学校長、教頭、教務での三者会議を行う。
- ⑦週1回、学校長、教頭、教務、各学部長での教務会議を行う。
- ⑧週3回、職員打ち合わせ（放課後）を行う。
- ⑨週3回、生徒指導交流（児童生徒の情報交流）を行う。
- ⑩年に2回、保護者との個人面談を設けている。・中3は、その他に進路相談もしている。
- ⑪進路指導担当は日本に出向き、生徒の受験校を訪問、資料・情報収集にあたる。
- ⑫校舎全域に警備センサー・防犯カメラを設置、また警備員が常駐している。電動の門扉を開閉。塀の上には鉄条網を張っている。
- ⑬派遣教員でプールの管理を行っている。
- ⑭体育館および全教室にクーラーを配備している。
- ⑮浄水器を設置し、飲用水としている。
- ⑯給食はなく、お弁当持参である。



3 現地での生活について

- 住居（マンション）は、事前に現地にいる派遣教員が手配をしてくれている。また基本的な家具は付いている。
- 大型スーパー、市場等が点在しており、買い物には困らない。そごう、三越等日系デパート、ダイソー、ニトリ、セブンイレブン等もあり便利である。日本書籍も購入できる。吉野屋、ミスタードーナツ、モスバーガー、ケンタッキー、その他日本食が食べられる飲食店もたくさんある。また割高にはなるが日本の食材も買うことができる。台湾料理もとてもおいしい。屋台が充実している。
- 通貨は台湾元（ニュー台湾ドル）であり、1元が日本円にして3円程度である。餃子が1個10円、チャーハンが200円程度、タクシーの初乗りが250円程度であり、日本に比べ物価は安い。
- 治安が良く、医療も高度である。日本語が通じる病院もある。派遣教員も国民医療保険に入ることができる。衛生面では日本には劣るが、心配するようなことはない。
- 日本の免許証の中国語翻訳があれば、車を運転することができる。また現地の免許証も取得することができる。台中日本人学校は車での通勤も許可されている。ただし、日本に比べると交通マナーは良くない。たくさんのスクーターが走っている。
- 親日的で、親切にしてくれる人が多い。日本の流行音楽、アニメなど人気が高い。テレビでは日本の番組を放送するチャンネルもある。

4 勤務を終えて（雑感）

勤務は多忙でしたが、とても充実していた三年間でした。一生懸命頑張る子ども達、協力的な保護者、熱心な同僚、親切で頼りになる現地スタッフ、皆があたたかく素晴らしい学校です。他府県の先生方からもたくさんのお話を学ぶことができました。台湾（台湾人）の良さ、また逆に日本（日本人）の良さも知ることができました。日本と台湾はつながりが深い国だということもわかりました。統治時代、台湾に尽くした先人、偉業を成し遂げ、今も感謝されている先人もたくさんいます。日本人として誇りを得られました。人として教員として心を豊かにすることができ、得るものが大きい三年間となりました。お世話になった関係各位に心から感謝したいです。